

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：10月ユーロ圏消費者物価（速報）

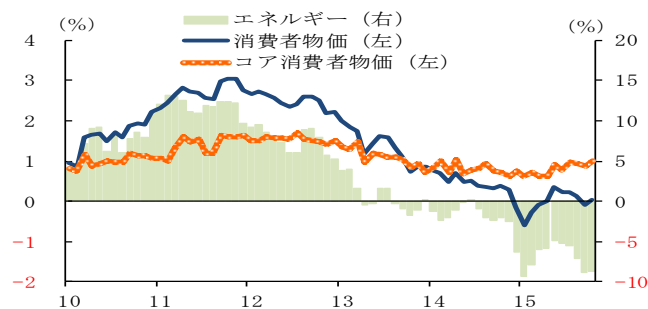
発表日：2015年10月30日（金）

～脱マイナスも警戒継続～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 首席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

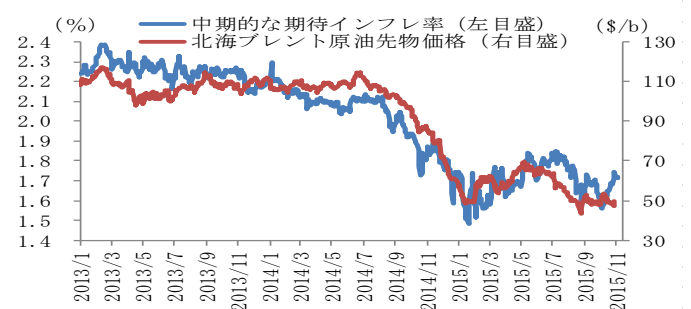
- 10月のユーロ圏の消費者物価の速報値は前年比ゼロ%と、半年振りに下落した前月（同▲0.1%）から再浮上した。内訳は、エネルギー価格の下落率が前月並み（9月：同▲8.9%→10月：同▲8.7%）にとどまるなか、コア物価（同+0.9%→同+1.0%）、非加工食品（同+2.7%→同+3.0%）の上昇率がやや加速し、全体の計数を押し上げた。コア物価の内訳は、エネルギーを除く工業品（同+0.3%→同+0.4%）とサービス（同+1.2%→同+1.3%）が揃って上昇率が小幅加速した。
- 発表済みの国別の10月の消費者物価（EU統一基準）は、ドイツ（同▲0.2%→同+0.2%）、スペイン（同▲1.1%→同▲0.9%）、イタリア（同+0.2%→同+0.3%）が揃って前月より改善。ここから逆算して、その他ユーロ圏の上昇率は小幅鈍化した模様。天候不順による食料品価格の上昇がドイツの計数を押し上げた。イタリアは衣料品価格などが上昇しており、内需回復を反映した可能性がある。
- ハト派的な10月22日のECB理事会を受け追加緩和期待が一気に高まったが、その後は米利上げ観測も相俟ったユーロ安進行、底堅い企業マインド、コア物価の上昇率加速、中期的な期待インフレ率が上向くなど、緩和の必要性を減じる材料も目立つ。ただ、コア物価の基調は引き続き弱く、ECBは低インフレの長期化によるリスクへの警戒姿勢を強めている。また、原油価格の居所に比べて、期待インフレ率がややオーバーシュート気味で、期待インフレ率の再低下が始まる可能性もある。緩和見送り時のユーロ高進行リスクも含め、向こう1ヶ月の物価を取り巻く環境を改めて点検する必要。

■ユーロ圏：消費者物価（前年比）



注：コア物価は食料・タバコ・アルコール・エネルギー除く  
 出所：Eurostat

■ユーロ圏：期待インフレ率と原油相場



注：期待インフレ率は5年先5年物スワップ金利より計算  
 出所：Bloombergより第一生命経済研究所が作成

■ユーロ圏の消費者物価（%）

	2014				2015									
	4Q	1Q	2Q	3Q	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
消費者物価（前期比）	-0.2	-0.3	0.5	0.0	0.2	0.1	0.3	0.0	0.0	-0.1	-0.1	-		
（前年比）	0.2	-0.3	0.2	0.1	-0.1	0.0	0.3	0.2	0.2	0.1	-0.1	0.0		
コア消費者物価（前年比）	0.7	0.7	0.8	0.9	0.6	0.6	0.9	0.8	1.0	0.9	0.9	1.0		
食料/アルコール/たばこ（前年比）	0.3	0.3	1.1	1.2	0.6	1.0	1.2	1.1	0.9	1.3	1.4	1.5		
食料（前年比）	-0.2	-0.1	0.8	0.9	0.3	0.6	0.9	0.8	0.5	1.0	1.2	-		
アルコール（前年比）	1.5	0.8	0.8	0.7	0.7	0.8	0.7	1.0	0.8	0.8	0.6	-		
たばこ（前年比）	2.6	2.6	3.1	3.4	2.8	3.0	3.1	3.2	3.5	3.5	3.3	-		
エネルギー（前年比）	-3.6	-7.7	-5.3	-7.2	-6.0	-5.8	-4.8	-5.1	-5.6	-7.2	-8.9	-8.7		

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。